

平成28年度学校評価（重点目標）

松本筑摩高等学校 定時制午前部午後部

学校教育方針		中・長期目標				
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、 1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の練磨を目的とする。		「心あらたな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が、安心して学習し、社会の一員として生きる力を育成する。				
		今年度の重点目標				
		1 いじめや暴力を絶対許さない安心安全な学校をつくる。 2 挨拶に始まるコミュニケーション力と社会性を育てる。 3 わかる授業・伸ばす指導を工夫して基礎的な学力を定着させる。 4 地域に開かれ、地域とつながった学校をつくる。				
分野	重点項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策	
安心安全な学校づくり	規範意識・安全意識・社会性を育てる	1 生活アンケートや諸調査を通して、生徒の内面の理解に努めるとともに適切な生徒指導ができたか	A	初期段階における適切な情報公開と指導方針の共有化	結果の集約を個人の支援につなげる	
		2 盗難や交通事故、人間関係トラブル等から身を守る行動をとれるように指導できたか	B	機会ごとに指導しているが、重大事案に発展する危険性はいつもある	時間をかけてケースに応じた個別指導に努める	
		3 「自分から挨拶」「人の話を聞く」を指導し、生徒と教師がともに気持ちの良い学校づくりを実践できたか	A	良くなっているが、集会への参加や日頃の生活についてはまだ不十分	曖昧にしない指導、見逃さない指導、個別の指導を進める	
	カウンセリング・マインドの獲得	4 いじめ・体罰の根絶に向けて定期的に点検ができたか	B	いじめの事案はない。個性尊重の雰囲気根付いている	定期的な調査、情報の早期把握にさらに努める。	
		5 生徒の変化や小さな気付きを職員間で共有するとともに、SCや外部機関との連携ができたか	A	必要に応じた校内連携、外部への支援依頼ができています	相談係、カウンセラーの負担軽減と職員会での情報共有が必要	
	学校生活支援	6 生徒が見通しをもって安心して生活できる学校生活を提供できたか	B	登校しない、できない生徒、連絡のつかない親への対応に苦慮している	生徒向けの週間、月間予定を分かりやすく掲示する	
		7 SSTや講演会の内容を点検し、生徒のコミュニケーション力の向上が図れたか	A	生徒の実態に即して学年ごとに工夫したSST、講演会を行っている	全体指導をきっかけに個別の指導計画をさらに工夫する	
社会性を育てる自主活動の活性化と実践	生徒の自主的な活動の充実	8 生徒が生徒会活動に積極的にかかわり、独自の活動計画を立てられたか	B	役員以外の生徒の参画意識が薄い	日常的な活動、積極的な校外活動への参加を進める	
		9 多くの生徒が部活動に加入し、活動内容を充実させることができたか	C	加入生徒者を増やしたい。熱心なクラブは全国大会等実績が上がった	費用面も含めたクラブ活動の運営について再点検が必要	
		10 本校に合った文化祭のスタイルを創り出し、生徒の力で実行できたか	B	執行部の生徒は頑張っていたが、他の生徒、職員の関わりがいま一つ	企画を協力して成功させるためには職員の関わりが不可欠	
	キャリア教育の推進	11 進路ガイダンスや体験学習により生徒のキャリア意識を高めることができたか	A	計画的に実施できているが、事後指導や学びの広がり課題	学年、係の連携を図り、体系的なキャリア教育を行う	
		12 新たな取り組みの実践により「人間力」を伸ばす工夫ができたか	B	キャリア教育を意識したSSTや授業改善を進めた	授業を中心に、生徒会や活動クラブ活動も含め、教育活動全体の質を高める	
	進学・就職指導の強化	13 進学や就職に関わる情報を適切に伝えることができたか	A	情報を整理して伝えている。個別指導では就職支援員の存在が心強い	支援員配置の予算措置を継続してほしい	
		14 生徒の自己理解と保護者の願いを大切に、就労移行支援を含め適切な指導ができたか	A	個別のケースに応じて粘り強い指導ができた	進学先、就職先の一層の開拓が必要	
伸ばす指導	わかる授業の実践	15 生徒による授業評価やユニバーサルデザインを意識した授業づくりができたか	B	授業評価や保護者アンケートの結果を生かし切れていない	評価結果を共有し改善を前提にした議論を深める必要がある	
		16 生徒の実態を踏まえてカリキュラムの研究や授業改善を進めることができたか	A	カリキュラムの改善を進めている。多様な生徒の集団指導に苦勞している	保健室、相談室と教科担当の連携を深める	
		17 基礎学力テスト・ドリル学習等の取組を通して基礎学力の充実を図れたか	C	基礎学力テスト、ドリル学習についての議論が深まらなかった	職員の意思統一を図り、生徒の成長を数値化する取組が必要	
	学習指導の工夫	18 個別指導や補習・模試などにより上位層の学力を伸ばすことができたか	B	積極的な声かけにより、進学に向けて頑張る生徒が増えてきている	4年制大学へに目を向ける生徒が増え、職員の意識が変わってきている	
		19 アクティブラーニングを意識した授業づくりを進めることができたか	B	外部講師の活用が増えた。授業改善の取組は進んでいる	グループワークを通して個々の学びをどう深まるかが課題	
開かれた学校づくり	情報発信力の強化	20 HPなどを通じて、地域や社会に向けて学校情報を積極的に発信できたか	B	HPの更新による情報発信はあるが新しい取り組みがない	積極的な取材依頼や地域の人材を活用する工夫が必要	
		21 公開授業や学校説明会を工夫し、本校の特徴を十分に伝えられたか	A	学校説明会で在校生の声を参加者に伝えることができた	中学校だけでなく地域への働きかけをさらに行う	
		22 街路清掃等の実施により地域の環境美化に貢献できたか	A	2回の美化活動では熱心に取り組む生徒が多かった	地域の中で生徒が育つ仕掛けづくりが必要	
	地域連携	23 地域の人材や教育資源を活用することができたか	B	ものづくり講座や信州学の実践など校外の人材活用が進んだ	校種間連携、地域への参加活動機会の開拓が必要	
		24 聴講生の受け入れやパソコン講座の公開により生涯学習の場を提供できたか	B	社会人講座の受講者が固定化しているが熱心に参加していただいている	開設講座の見直しを行った	